

平成28年 第9回

教育委員会定例会会議録

とき 平成28年10月25日

品川区教育委員会

平成28年第9回教育委員会定例会

日 時 平成28年10月25日(火) 開会：午後3時02分
閉会：午後4時42分

場 所 教育委員室

出席委員 委員長 菅谷 正美
委員長職務代理者 鈴木 敏夫
委員 富尾 則子
委員 海沼 マリ子
教育長 中島 豊

出席理事者 教育次長 本城 善之
学校計画担当課長 篠田 英夫
学務課長 有馬 勝
指導課長 熊谷 恵子
教育総合支援センター長 村尾 勝利
品川区図書館長 木村 浩一
統括指導主事 山本 修史

事務局職員 庶務係長 小林 則雄
書記 和田 祐磨
書記 高下 聖矢

傍聴人数 2名

その他 品川区教育委員会会議規則第16条の規定に基づき、会議の一部を非公開とした。

次第

- 第62号議案 都費教職員の任免等に関する内申について
- 報告事項1 平成28年度移動教室実施結果について
- 報告事項2 都費教職員の任免等に関する内申について（休職）
- 報告事項3 平成28年特別区および東京都人事委員会勧告について
- 報告事項4 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について
- 報告事項5 「平成27年度保護者アンケート」、「平成27年度児童・生徒アンケート」の結果について
- 報告事項6 平成28年度東京都児童・生徒体力調査の結果について
- 報告事項7 事務局職員の任免等について
- その他 平成28年11月の行事予定について

平成28年第9回教育委員会定例会

平成28年10月25日

【菅谷委員長】 ただいまから平成28年第9回教育委員会定例会を開会いたします。
署名委員に鈴木委員、富尾委員を指名いたします。よろしくお願ひいたします。
本日は、傍聴の方がおられますのでお知らせいたします。

まず、会議の持ち方でございますが、日程第1、第62号議案です。都費教職員の任免等に関する内申について。日程第2、報告事項2 都費教職員の任免等に関する内申について(休職)、日程第2、報告事項7 事務局職員の任免等についての会議の持ち方についてお諮りいたします。

本件は人事に関する案件ですので、品川区教育委員会会議規則第16条の規定に基づき非公開の会議といたしますが、ご異議はありませんか。

(「異議なし」の声あり)

【菅谷委員長】 異議なしと認め、本件については全ての日程の終了後に審議いたします。

それでは、本日の議題に入ります。日程第2、報告事項1 平成28年度移動教室実施結果について、説明をお願いいたします。

学務課長。

【学務課長】 それでは、私から平成28年度の移動教室の実施結果について、ご説明いたします。お手元の資料2をごらんいただきたいと思います。

移動教室は、教育課程の一環として、自然の中での体験学習や歴史に関する学習等を通じまして、集団生活における規律や連帯感を養うことを目的に、毎年、実施しているところでございます。

まず、小学校の移動教室でございますが、宿泊先は例年どおり日光、光林荘を利用いたしまして、2泊3日の日程で、6年生と特別支援学級を対象に実施いたしました。各学校の日程につきましては、1枚、おめくりいただきまして、別紙1の実績表のとおりでございます。5月11日から、一番下になります9月16日まで、夏休み期間を除きまして実施して、児童数2,222名、教員223名、合計2,445名が参加をいたしました。なお、特別支援学級の学校別参加状況の内訳については、表の下のところに四角く囲んであるところでございます。

次に、恐れ入りますが、中学校ですけれども、1ページ目に一旦、戻っていただきたいと思います。中学校の移動教室につきましては、福島県磐梯高原の磐梯桧原湖畔ホテルと、さらに長野県菅平高原のホテルニューダボスを宿泊先とする2つのルートに分かれて実施いたしました。日程は2泊3日、対象は7年生と特別支援学級の生徒です。

中学校の移動教室の内訳でございますけれども、2枚、おめくりいただきまして、別紙2のほうをごらんいただきたいと思います。磐梯高原につきましては14校と特別支援学級で実施いたしまして、参加生徒数は1,510名、教員は128名でございます。5月25日から9月16日にかけて実施いたしました。菅平高原で実施した学校は東海中の1校ということで、7月6日から7月7日かけて実施いたしました。参加人数は、生徒118

名、教員8名ということでございます。なお、特別支援学級の学校別参加内訳は、この下の表のとおりでございます。

小中学校とも当初の計画どおり実施されまして、特に大きな変更あるいは事故もなく無事に終了したということでございます。

簡単ですが、私からの説明は以上でございます。

【菅谷委員長】 質疑をお願いいたします。どうぞ、鈴木委員。

【鈴木委員職務代理者】 中学校の宿泊先なんですけれども、これは磐梯と菅平は選択、今後もずっと継続されると。

【学務課長】 実は、3.11の前は、しばらくの間、磐梯高原のほうで一括して行われていました。その後、一旦、避難するといいますか、一時的にということで菅平等で行った時期がありましたけれども、いろいろな条件を鑑みて、やはり歴史、文化、伝統工芸、いろいろなもの、雨天のときの代替措置等を含めまして、磐梯高原のほうがいいだろうという話になって、徐々に戻ってきたという経過があります。

東海中につきましては、一応、菅平で3年やってということで、今年が3年目ということですので、来年以降は基本的に全校、15校まとまって磐梯高原で一括して行っていく、そういう予定でいるところでございます。

【菅谷委員長】 ほかにありませんでしょうか。

1つだけ教えてください。今年みたいに、台風が非常に多かったと思うんですね。9月の実施はあまり多くないんですけれども、7月にあまり台風が来なくて、8月から9月にかけてやたらにきた感じがしているんですが、先ほどご報告があったように、特には何も問題がなかった、台風についても大丈夫だったということでしょうか。

【学務課長】 実際に今回は大きな変更、例えば崖崩れがどこかにあって中止になったとか、そういったことはなかったんですけれども、行って見て、やはり登山の計画をしていたが日中雨だったというところはありました。そういうところは、登山コースをやめて、桧原湖畔のちょっとした散策とあぶくま洞へ行ったとか、喜多方のほうのまちなみの見学へ変えたとか、そういったところが幾つか出ています。

担当校長のほうも、今後、こういう悪天候も予想されるということで、実態調査のときにほかの雨天対応みたいなものももう少し検討していこうかなという話を、今、してまして、また来年の実施に向けて、それも1つの課題かなというふうに思っているところでございます。

【菅谷委員長】 ありがとうございます。

(「はい」の声あり)

【菅谷委員長】 ほかに質疑はございますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、平成28年度移動教室実施結果についてはよろしいでしょうか。

では、本件は了承いたします。

次に、日程第2、報告事項3 平成28年度特別区及び東京都人事委員会勧告について、説明をお願いいたします。

指導課長。

【指導課長】 それでは、平成28年度特別区人事委員会勧告及び東京都人事委員会勧告の内容について報告をいたします。資料4をごらんください。

本件の大部分は区の職員にかかわるものでありますが、このうち、教育委員会に係るものとし、幼稚園の教員及び固有教員がごさいます。なお、現在、幼稚園の教員が27名、固有教員が19名おさいます。それから、幼稚園の管理職が8名おさいます。

まず、1ページをごらんください。平成28年特別区人事委員会勧告は、平成28年10月11日にごさいました。そのポイントは、上段、四角で囲ってあるところでごさいます。

まず1点目に、月例給与につきましては、民間給与を下回っており、公民格差、月例で584円、割合にいたしまして0.15%になりますけれども、これを解消するため、給料表の引き上げ改定を行うということが1つでごさいます。

続いて、2点目に特別給でごさいますが、期末手当、勤勉手当につきましても、民間の賞与、いわゆるボーナスの支給割合を下回っているため、民間の支給状況を勘案し、年間の支給月数を0.1カ月引き上げるというものでごさいます。これらの改定の結果、職員の平均年間給与は約5万1,000円の増加となります。

その下に移りまして、民間との比較につきましては、平均41.7歳ということで比較がごさいますので、詳細はごらんいただきたいと思ひます。なお、平均41.7歳の職員の場合、先ほどの年間、約5万1,000円の増加になるということでごさいます。

続いて、下に移りますが、2の改定内容に進みます。給料表につきましては、原則、給料表の全ての級及び全ての号給について給料の引き上げを行うということでごさいまして、幼稚園教育職員の初任給につきましても引き上げを行っておさいます。特別給につきましては、先ほどご説明したとおり、年間の支給月数を0.1カ月引き上げるというものでごさいます。支給月数の引き上げ分につきましては、民間の状況等を勘案し、その全てを勤務手当に割り振るものとしておさいます。なお、特別区人事委員会による月例給及び特別給の引き上げ勧告は3年連続となっております。

2ページに進んでいただきまして、モデルケースによる試算等につきましては、行政職員のものとはなりますが、ご確認いただければと思ひます。

これら2点の実施時期でごさいますけれども、3番、実施時期に示してごさいますが、給料表の改定は平成28年4月に遡及して実施し、特別給の引き上げは、本年12月支給の期末勤勉手当から実施するものであります。

続いて、6ページをごらんください。こちらは、平成28年職員給与に関する報告及び勧告の抜粋になります。(3)その他、①におきまして、区費負担の学校教育職員の給与制度については、東京都の教育職員との均衡を考慮して改定等を行うことが適当であるというふうに記載がごさいます。これは、同じ職場で働く同じ職層の給料については均衡を図るという意味合いでごさいます。

ここで、固有教員の月例給の給料表にかかわる東京都の人事委員会勧告についてご説明いたします。現在、区費負担の学校教育職員が所属をしているのは、品川区を含め特別区の中で3区となりますが、特別区人事委員会勧告の趣旨を踏まえ、東京都が定める教育職給料表と同内容の給料表を定めることとしておさいます。

それでは、7ページをごらんください。東京都の平成28年の人事委員会勧告は、平成28年10月18日にごさいました。月例給につきまして、民間給与をわずかに下回っており、公務員格差、月例で81円、割合にて0.02%になります。本年度の公務員格差は、

現行の給料表の最低単位である1000円に満たない極めて小さいものであるため、給料表の改定は見送りになっております。

なお、特別区の勧告と東京都の勧告において公民格差に差異が生じますのは、民間給与の実態を調査する際に、東京都では特別区間内の事業所に加え、多摩地区の事業所もその調査の対象としていることが考えられます。特別給につきましては特別区と同様で、年間の支給月数を0.1カ月引き上げるものというものでございます。

扶養手当につきましては、配偶者にかかわる扶養手当を父母等と同額まで減額し、子にかかわる手当等を引き上げるものでございます。具体的な額につきましては、1ページめくっていただきまして、8ページ、一番下の4、制度改正の(2)扶養(家族)手当の項目の記載のとおりでございます。こちらは、平成29年4月1日から実施となります。

なお、扶養手当制度について、特別区人事委員会勧告におきましては、国の制度改正の趣旨等を踏まえ、区の実態を把握し検討する必要としております。これは、2ページの下の方に書かれているものでございます。2ページの4番のところです。区の実態を把握し、検討する必要とございます。

そこで、固有教員の諸手当につきましては、特別区の職員と同様の制度体系としていただいておりますので、今回、扶養手当の改正は行わない予定でございます。

そのほか、前になります、3ページから4ページにわたって、特別区人事委員会の意見が、また、後ろになります、9ページ下段から10ページにわたって、東京都人事委員会の意見が載せられておりますので、ごらんいただきたいと思っております。

なお、今後の条例改正にかかわるものですが、4ページをごらんいただきまして、特別区人事委員会の意見に、勤務環境の整備等、1、仕事と生活の両立支援において記載がございますけれども、この勧告後の10月14日の国会にて、育児・介護休業法の改正法案が提出されました。これに伴い区においても国の改正内容を考慮した制度の整備が必要になるものでございます。具体的な内容といたしましては、介護休業の分割取得が可能になるなどがございまして、今後、区長部局の改正に合わせて規定の整備を行ってまいります。

私からは以上でございます。

【菅谷委員長】 質疑はございますでしょうか。

それでは、平成28年特別区及び東京都人事委員会の勧告について、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【菅谷委員長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第2、報告事項4 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について説明をお願いいたします。

指導課長。

【指導課長】 それでは、資料をごらんいただきまして、報告事項4になります。平成28年度全国学力・学習状況調査の結果についてです。

左側の箱になります、調査日時は本年、平成28年4月19日火曜日、調査対象は6学年及び9学年になります。調査の内容につきましては、教科に関する調査として、知識に関する問題、これをA問題と称しております。もう一つは、主として活用に関する問題、こちらはB問題と称しております。それ以外に、生活習慣や学習環境に関する調査というこ

とで、児童・生徒に対する調査、また学校質問紙調査として教員に対する調査がございます。一番下に、参考として、東京都等の平均正答率順位等を載せてございます。

真ん中の箱になりますけれども、5番、教科に関する調査の結果の概要でございますけれども、小学校においては、全ての教科において、全国及び東京都の平均正答率を上回っておりますが、その差は全国それぞれの都道府県、頑張っておりますので、差は小さくなっているという状況があります。また、中学校では、国語A及び数学Bにおいて、東京都の平均正答率を若干下回ったという状況でございます。

6番は、学校質問紙調査の結果概要でありますけれども、ここからは、授業形態の特徴が見えてきます。「さまざまな考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。」そして、「学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか。」、この2点につきましては、こういった授業を行っていると感じた教員の回答が、東京都や全国と比べ下回っているという状況でございます。

右側、7番の児童・生徒質問紙調査の結果概要でありますけれども、子どもたちは計画的に学習をしていると回答しているところです。これについては、東京都の平均を品川区の子どもたちは上回っている。ただ、予習、復習をしていると感じた児童は東京都に比べ低くなっているという状況にあります。ただ、中学校、後期課程においては、予習、復習をしていると感じた回答が高くなっているというのが特徴的なところだと思います。

次に、課題が見られる問題に少し触れてみたいと思います。お手元の資料をご覧ください。まず、小学校6年生の国語Aでございますけれども、最初の問題は、3、4年生の「読むこと」の指導事項です。国語Aについては、品川区の子どもたちの正答率は東京都よりも全国よりも上回っておりますが、品川区の正答率の中では課題が見られたものとして、この問題を載せてございます。

これについては、ここに書き記しましたけれども、複数の叙述をもとに主人公の心情を読み取っていくという点に課題が見られます。

次のページをごらんいただければと思います。ローマ字なんですけれども、こちらにつきましては、東京都も全国も課題が見られるというものでございます。今回の学習指導要領から、小学校第3学年に、ローマ字を読み、ローマ字で書くという指導要項が入りましたけれども、「あさって」と、促音が入ったときに書けない。また、「ひやく」と、拗音が入ったときに書けない、読めないということが見受けられるので、これは今後も課題として授業の中で指導していく必要があると思われま。

そのほか、後段に行きたいと思うんですが、1枚めくっていただきまして、B問題ですけれども、これは、パン職人について紹介するというものです。正答率は高く、これは、子どもたちが実際に「町の人に学ぶ」とか、「ドリームジョブ」等で実践的に学んでいるのでこういった部分は強いんですけれども、ただ、気になるのが無回答率です。国も都もそうなんですけれども、実際に条件に則して書くといったときに、無回答が高くなっているというところ、初めから、こうした原稿用紙を見るとあらかじめ子どもがまだいるんだなというところを意識し、これについては書く意欲を高めていく指導をしていくことが必要であると思っております。

そして、算数のAでございますけれども、1枚めくっていただきまして、この百分率なんですけれども、どこを100とするのかがわからなかった、百分率についての理解がま

だ不十分な子どもたちがいるということが見受けられます。基準量と比較量の関係を理解することができていないのではないかということで、こういった点についても、教師が留意して指導していくことが必要であろうと思われます。

後半に進みますが、中学校の7番の問題でありますけれども、話し合いを通して合意を形成していくという内容です。先ほどの学校質問紙に、「グループで話し合う活動を授業で行いましたか。」という問いかけがありましたが、教員からは「あまりやっていない。」という回答が多く見られました。そうした点からも、ここの正答率が国や都よりも低くなっているという結果につながっているのではないかと思います。ですので、今後はそうした話し合い活動のような、言語活動を十分取り入れていく授業の構築が、一層必要になってくるのではないかと考えます。

最後に数学のA、後ろから2枚目になりますけれども、数学Aの(3)「YがXに反比例するものを選びなさい。」というものです。これは、反比例の意味がわかっているか見つけられるというふうに見えるのですが、できていない。もしかするとその意味はわかっているけれども、問題文で示されると、どれが反比例なのかわからなくなってしまうのかもしれない。とすると、問題の読み取りが課題なのかもしれない。反比例がわからないのか、それとも読み取れなかったのか、その辺のところを分析していくことも各学校で必要ではないかと考えます。

良好な問題につきましては、後ほどごらんいただければと思います。

また、漢字問題の資料につきましては、漢字は、これまで品川区が漢字ステージでしっかり子どもたちに力をつけてきたというところがありますので、そういったことから正答率が非常に高くなっているのではないかというふうに思われます。実際に経年で、24、25、26、27、28と5年間の漢字を見ていきますと、品川区の子どもたちが漢字に関して非常に高い数値を示している。これも、やはり日ごろの学習の成果であるというふうには思っています。

また後ほどごらんいただければと思うんですが、裏面の中学校の漢字の書きの問題なんですけれども、24年度も26年度も「地域の人をショウタイする」と「ショウタイ」が出題されています。これは24年度にあまりにも「ショウタイ」が書けなかったということで再度出されたということです。そうした中で、品川区では10ポイント以上高まっているということは、漢字ステージを使って意図的な漢字指導を行ってきた成果ではないかというふうには思われます。

雑駁ではございますが、私からは以上でございます。

【菅谷委員長】 1つだけ教えてください。

今、出されたもの、4種類あるんですが、例えばこの表ですが、この中に結果とともに、結果を分析された中身も入っていますが、これは全て公表されているものと考えていいのか、またこの中のどれかはこれから品川区が公表していくもの、その辺のところをちょっと教えてください。

指導課長。

【指導課長】 こちらに示してありますこの表、数値でございますが、まず校長連絡会で示したところです。また、全国、東京都の結果につきましても、これはもうオープンになっているものでございます。また、品川区の結果につきましては、個々の学校の状況に

については発表してまいりませんが、品川区全体の状況につきましてはこれまでも公表してきているところですので、それはオープンにしていくことが可能だというふうに考えております。

【菅谷委員長】 どうぞ、鈴木委員。

【鈴木委員職務代理者】 ちょっとお聞きしたいんですけども、この資料5-1の7の児童・生徒質問紙調査の結果概要で、小学校の予習・復習のポイントが下がっているような気がするんですけども、これは原因か何かがあるんですか。平成27年度

【菅谷委員長】 指導課長。

【指導課長】 そこが私どももしっかり考えていかなければいけないところだと思うんですが、ごらんいただくと、26年度から27年度にかけて上がっていて、今回、下がっている。調査した対象が異なっているということで、学年の状況というものもあるかとは思いますが。ただ、区全体として今回は下がっているということで、その辺がなぜなのかということについても、各学校で今一度、振り返りをしていくことが必要だと考えます。

【菅谷委員長】 どうぞ、富尾委員。

【富尾委員】 今の質問に関連しているかもしれないんですが、小学校で予習をしないというふうに指導はされているんですか。

【菅谷委員長】 指導課長。

【指導課長】 もちろん、「明日、学習するところを読んでください。」のように、予習の意味の宿題もあるかと思えます。ただ、小学校籍の統括指導主事に確認したところ、「どちらかというと、小学校だと、復習はするけれども、予習はあまりしないかもしれない。」と申しておりました。

【菅谷委員長】 統括指導主事。

【指導課統括指導主事】 今、お話のあったとおりなんですけれども、小中一貫教育ということで、5年生以上については中学校に向けて、定期考査に向けた予習型をやっているということで、家庭学習、学校が出すもの、そして、残りの10分、15分については予習型自学自習の形でやろうということは、どの学校も推奨して指導はしているところなんです。

【菅谷委員長】 非常に単純な問題なんですけれども、ちょっと教えてください。5番のところの調査結果、パーセントが出ていて、これ、例えばAとBの種類で問題数が違うかなという感じがするんですけども、例えば国語のAだったら回答数は幾つでしょうか。

指導課長。

【指導課長】 すみません、今、調べますので。

【菅谷委員長】 なぜそんなことを申し上げるかという、僅差でよくなっているという評価になっているんですけども、問題数が多くても40ぐらいかなという感じがするんです。45分の時間の中でやっていると思うし、中学だったら50だと思うんです。

それと、個数の問題からいうと、例えば50にすると、パーセントでいくと、1つの問題が2%ぐらいでない。すごい単純にですよ。そうすると、2%の中ができたりできなかったりということは、やはりある程度、誤差の範囲に考えてもいいのかなという気がします。また、この調査は非常に大きな調査ですから、いわゆる数字の持っている意味合いというのは、0.何%のその比較で上がったとか下がったという変なコメントはしたくない

と思うし、昨年度というのはやはり母集団が違うから違うと思うんです。傾向としてはわかるとは思いますけれども。

どちらにしても、5のところの数字を見ていくと、中学、問題1つか2つ、2つもいっていないなというところの差でしかないので、ちょっと教え方を工夫すればいいのかなと思うんです。

それよりも、ちょっと気になるのは6のところ、これ、全部、いわゆる言語活動の内容だと思えます。言語活動ほど、やるか、やらないか、指導の中で使うか、使わないかが問題だとすれば、このことをやらないといい結果が出てこないなというところがあるのかなという感じがするんですけれども、私自身は、いわゆる現行の学習指導要領の中で、言語活動というのは非常に大事だという素地があるのに、意外に品川区はやっていない部分もあるのかなという感じがしたんですが、そんな感じはいかがでしょう。

指導課長。

【指導課長】 言語活動の充実、これは、この10年間、言われてきたところでありますけれども、言語活動は目的ではなくて手段ではありますが、そこをしっかりとやることで学力の定着につながっていくと思いますので、この結果を踏まえて学校の授業改善につなげていくということが必要ではないかと思えます。実はこの後の児童・生徒アンケートでもその部分が見受けられますが、あまりやっていない感があります。

【菅谷委員長】 どうぞ、富尾委員。

【富尾委員】 ちょっとあまり関係ない話かもしれないんですけれども、東京都でこの問題をつくっていると思うんですが、そもそもそれぞれの正答率というのは何%ぐらいに想定されて問題がつくられているかどうかはご存じですか。

【菅谷委員長】 指導課長。

【指導課長】 こちらは国の調査でありますので、国立教育政策研究所が問題をつくっているんですけれども、そもそもこの問題だったらこれぐらいとれるだろうという想定で作成しているのではなく、基本的に、学習指導要領の全ての指導事項が問題の中に入っている、それが定着しているかどうかを図ることが、この学力・学習状況調査の意図であります。よって、6年生、9年生の前学年までの内容がきちんと理解できているかどうかというのを見る趣旨でつくられているものでございます。ですので、途中段階までできていたら、これは準正答としましょうというように、どこまで分かっているかを見るものでもあります。

【富尾委員】 ありがとうございます。

【菅谷委員長】 ほかに質疑はございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

統括にそれを答えていただいて申しわけありません。

【指導課長】 すみません。

【菅谷委員長】 よろしゅうございますか。

それでは、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【菅谷委員長】 では、本件は了承いたします。

次に、日程第2、報告事項5 平成27年度保護者アンケート、平成27年度児童・生徒アンケートの結果について、説明をお願いいたします。

指導課長。

【指導課長】 それでは、平成27年度保護者アンケート及び平成27年度児童・生徒アンケートの結果につきましては、資料の一番上に概要版をつけさせていただいておりますので、その概要版に沿ってご説明したいと思います。

全体的な傾向といたしましては、昨年度のアンケート結果と大きく変化しているところがございますでした。特徴が見られた点につきまして、少し触れながら説明いたします。

まず、保護者アンケートでございますが、これは平成24年度から全保護者を対象として実施しており、今回、4回目になります。このアンケートは、小中一貫教育の検証として、家庭における教育方針とお子さんの生活学習習慣についてなど、4つの大きなカテゴリーで、保護者の子育てに対する意識、学校教育に対する意識、品川区の教育施策に対する意識を尋ねたものでございます。質問数は全部で42問ございます。

まず、ちょうどA4ペーパーの真ん中から中段よりやや下のところがございますけれども、問4から問22におきましては、家庭における教育方針とお子さんの生活・学習について尋ねております。まず問4でありますけれども、基本的な生活習慣、挨拶、公共のルール等について、子どもに身につけさせていると回答したご家庭は、おおむね80%を超えています。

問5の家庭学習の習慣を身につけさせていると回答したご家庭は、小学校では約80%ですが、中学校では約60%になっております。こちらは、直近3年間で比較すると、小中学校ともに上昇傾向にあり、年々、約1ポイントずつ上昇しております。昨年度の調査でありますので、まだ義務教育学校ではないので、小中学校というふうに申し上げたいと思います。

しかしながら、この問10なんですけれども、家庭で読書の習慣をつけさせていると回答したご家庭ですけれども、小学校では50%程度、中学校では32%程度と、昨年度とほぼ同様の結果となっております。また、問12の地域行事やボランティア活動に子どもを積極的に参加させていると回答したご家庭についても、小中ともに微増はしているものの、昨年度と同様、50%を下回る結果となっております。

続きまして、裏面になりますが、お子さんが通っている学校の選択についてです。問23、学校選択を利用して入学した割合は約30%、問24、選択の理由で一番多いのは、校種を問わず地元で通学上便利だからであり、続いて兄弟関係、友人関係となっております。

問27、現在、通っている学校に満足していると回答したご家庭は約90%となっております。これは、直近3年間で比較すると、小中学校ともに上昇傾向にあり、特に中学校では、年々、約3ポイントずつ上昇してきております。

続いて、設問29から33になりますけれども、学校に関する保護者の考えについて尋ねております。問の30、31でありますけれども、学校の活動に協力したと考えている保護者に比べ、PTA活動に協力していると考えている保護者は少ない傾向にあります。

続いて、設問34から設問42であります。品川区の教育施策について尋ねております。問の35であります。小中一貫教育に期待するもので一番多いものは学力の向上、次に多いのは学習意欲の向上であります。

問の37、4・3・2のまとまりで義務教育を考えることに関する保護者の理解はあま

り高くない状況でございます。しかし、直近3年間で比較すると、小中学校ともに上昇傾向にあり、全体では、平成25年と比較すると約5ポイント上昇しております。

問36、市民科をよい学習だと考えている保護者は80%を超えております。また、問40にありますように、低学年からの英語科教育をよい取り組みだと考えている保護者は、約90%となっております。こちらにも、直近の3年間で比較しますと、全体として上昇傾向にあり、小学校でも当てはまるの割合が前年より2ポイント上昇しております。

問40、41、学校評価、学力定着度調査について、よい取り組みだと考えている保護者は約80%となっております。

続いて、もう一枚、児童・生徒のアンケート結果でございますが、こちらの概要版を使ってご説明したいと思います。

児童・生徒アンケートでございますけれども、こちらは平成25年度から実施したものであります。今回は3度目、小学校3年生以上の全児童・生徒を対象として、平成28年1月に実施いたしました。アンケートにつきましては、内容ですが、生活習慣、学習など、大きく9つのカテゴリーによって、児童・生徒の学習状況や生活状況、市民科でつけた力、ICTやグローバル化、教育課題にかかわる状況等を尋ねたものでございます。質問数は、児童対象のものは全部で58問、生徒対象のものは全部で62問ございます。

まず、やはり真ん中になりますけれども、設問3から設問19になりますが、こちらは児童・生徒の生活習慣及び学習について尋ねたものです。問3の毎日、朝食を食べている児童・生徒は80%を超えております。問4、問5ですが、午前7時前に起きている児童・生徒は約60%、一方、真夜中、12時過ぎまで起きている児童・生徒は全体の約10%、生徒につきましては約23%となっております。問10、1カ月の読書冊数ですが、これは1冊から2冊が最も多く、1冊も読まない児童は9.8%、生徒は35.2%、全体で20%程度おります。問14、家庭での学習時間は、児童・生徒ともに1時間から2時間未満が最も多くなっています。

設問14、15の家庭学習の時間でございます。9年生は3時間以上と回答した生徒が最も多くなっておりますが、これは受験直前に実施したアンケートということで、実態に即した結果となってあらわれていると考えております。

続きまして、次のページになりますけれども、設問20から設問30まで、ここでは学校生活、友人関係について、進路についてを尋ねております。設問20なんですが、学校に行くのは楽しいと思っている児童・生徒、授業がよくわかると回答している児童・生徒はともに85%を超えております。また、問の23、学校の決まりを守っていると回答した子どもは90%を超えております。

続いて、市民科学習について尋ねております。問の31、32、市民科の学習を大切だと思っている児童・生徒は約85%となっております。

問33、34、人の気持ちがわかる人間になりたい、及び問34、35、いじめはどんな理由があってもいけない、問36、37、人の役に立ちたい、役に立つ人間になりたいと思っている児童・生徒は90%を超えてございます。

次に、英語学習についての質問です。問の40、41、英語の学習が好きな児童・生徒は約70%ですが、問41、42、英語の学習が大切だと思っている児童・生徒は約90%となっております。また、問42、43、外国人と友達になったり、外国のことについて

知りたいと思っている子どもは約70%おり、問46、48にあるように、外国に留学したり国際的な仕事についてみたいと約半数の児童・生徒が考えております。

次に、一番下になりますが、パソコンやインターネットの使用状況等についてです。次のページの一番上になりますが、48、50、コンピュータや電子黒板を使った授業がわかりやすいと思っている子どもは約65%を超えている状況でありますけれども、一方、そのような授業を受けたことがないと回答した児童・生徒は約20%おります。

続きまして、地域参加についての問いです。問54、56、地域行事には約65%の児童、約45%の生徒が参加していると回答しています。一方、57、59、ボランティア活動に参加している児童は約45%ですが、生徒は約65%と回答しております。これは、やはり年齢が上になるにつれて、ボランティア活動に参加できる機会や場が増えるためと考えます。

問55、57、地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があると回答した児童・生徒は約70%でございますが、58、60、地域をよくするために何をすべきかと考えている児童・生徒は約半数、55%となっております。

最後にその他で、中学校の学校選択について尋ねております。自分の行きたい中学校を選べるのはよいことだと思っている児童・生徒は90%を超えております。また、62で選択理由で重視したことは、地元で通学上便利だからが最も多く45%を超えております。これは保護者アンケートと一致してございます。

このアンケートの結果でございますが、これから11月に行われる校長連絡会でご説明した後、自校の結果と品川区全体の結果を各校に提供しまして、今後の教育活動、また次年度の教育課程の編成に活用していただく予定でございます。

私からは以上でございます。

【菅谷委員長】 ご質疑はございますでしょうか。

私からよろしいですか。膨大な資料なものですから、全部、一遍にわからない、読み取れないところがありますけれども、すごく細かく調査していて、中学生、回答するのは相当な時間、中学生というか、このときは中学生だと思うんですが、時間がかかるかなというのと、根気よくやられているなという感じがしたんです。

どこをとっても大事だと思うんですが、私はこここのところが結構気になる場所です。児童・生徒への結果なんですが、設問の20番、学校に行くのは楽しいと思いませんか。大体、これを見ていると、80%以上の子が楽しいと回答している。その部分は私はそれでいいと思うんですが、気になるのは、そうは思わないという子どもたちが児童も生徒もいるということが一番気になるんです。特に中学校になると、小学生と見比べて8.3と、品川区内全体の感じ。1割はいかないけれども、学校はそんなに楽しくない子がいて、この辺のところをやはりほんとうは分析したいな。これ以上のなぜかということは問えないからあれなんだけれども、当然、学校しか分らないと思うんです。

その辺は教育委員会の中で調べていただいて、やはり教育委員会としては、私どもは学校を運営しているわけですから、その中でこういうネガティブな反応のあったところについて、やはり重きを置きたいなという感じがするんです。

その辺について、指導課長はどのようにお考えでしょうか。

指導課長。

【指導課長】 委員長がおっしゃるとおり、「学校に行くのを楽しい。」とは思わない子どもがいるということ、それから、無回答の子どもがなぜ無回答だったのかということも気がなります。その子どもたちに学校に来ると楽しいというふうに思わせないと、真の意味での学校の満足度が高くはならない、それから学校が楽しい場所にならないというふうには思います。

学校に対しましては、具体的に、項目ごとにそれぞれの学校でどういう結果だったのかということも含め返しますので、その中で、それぞれの学校が子どもたちの様子を見取りながら、実際、どういうふうに対応していくかということを検討していくことが必要だと思っています。ですので、数値ではなくて、その数値に込められた子どもたちの思いというものをしっかり受けとめて、対応していくことが重要であると考えます。

【菅谷委員長】 どうぞ、鈴木委員。

【鈴木委員職務代理者】 ちょっと似たようなところで、児童・生徒のアンケートの35番、6番で、自分にはよいところがあると思っている児童・生徒は、小学校で76.6、中学校では66.6。これは増えてきているということですか。あまり変わらない？

【菅谷委員長】 指導課長。

【指導課長】 済みません、お待たせいたしました。

自分には良いところがあると思っている児童が、去年は小学校は78%、今年度は76.6%と若干下がっていますが、ほぼ一緒。中学校では、昨年度が66.1%で本年度が66.6%ですので、ほとんど変化がないということになります。

【鈴木委員職務代理者】 できればこの数字を伸ばしたいですね。海外の人は、皆さん、自分がいいところを持っているということをお大事にして主張していくということらしいですけれども、日本はちょっとその数字が少ないところが多いですね。

【教育長】 これは全国比較はないんですけど。

【指導課長】 こちらに。

【教育長】 同じ項目で。

【指導課長】 同じ項目がございます。

【教育長】 調査しているのがあるとすれば、今年度で結構なんですけれども、全国と比較して、東京都と比較してというのがわかりますか。

【菅谷委員長】 時間がかかるでしょうか。

【指導課長】 済みません。全国学力・学習状況調査の意識調査の中にも、「自分には良いところがあると思う。」という項目がございます。数値については後ほどお答えしたいと思います。

【菅谷委員長】 海沼委員、どうぞ。

【海沼委員】 問3に朝食を毎日食べている児童ってありますね。80%を超えているとありますけれども、やはり牛乳一杯でも飲んでこないというお子さんがいるということなんでしょうか。

【菅谷委員長】 指導課長。

【指導課長】 子どもたちが回答している部分になりますので、委員ご指摘のとおり、例えば牛乳やジュースだけ飲んで御飯とかパンを食べていないので、「食べていない。」と回答したお子さんもいるかと思えます。

ただ、これが昨年度も今年度もほぼ同じ数値になっているという状況があるのと、親御さんが、小学校では90%近く、中学校では80%、食べさせていますと言っていますので、どの程度を朝御飯としているかというのは、またそれぞれのお子さんの感覚によっても違うかと思えます。

【菅谷委員長】 昔、規範意識の調査というのを中学生にやったことがあります。全く同じ中身を親御さんに回答してもらったんです。どっちが厳しく回答するかといたら、子どものほうです。子どものほうが真面目な回答の姿勢というのはいつでも出ているんじゃないかな。ただ、食べ方が、食べているというと、完全に食べていることを食べているというふうに子どもは解釈するのが普通だと思うんです。

あと、一番僕が気になるのは、子どもの調査でザッと見た中であれなんですけれども、20ページのところの、小学校でいうと37問、中学でいうと38問のところ、リーダーとして周りの人をまとめていけるかというところが、これは諸外国の例を、日本も含めて見たことがあるんですけれども、大体、いつも低いです。意欲があまり外へ出てきていない。実際、そうじゃないと思うんですけれども、正直、意外に自分を否定的に見る考え方が強いんです。まして、小学生、中学生になるともっと厳しく出てきて、これは3分の1ですものね。自分のことを、自己肯定感が相当低いという感じですか、そんな感じにつながっているのかなという気がするんです。

ただ、あまりにも、力がないのにあるというのも逆に困ってしまう部分もあるので、これはちょっと日本的な要素があるなという感じはしています。毎年、あまり変わらないんじゃないかなという感じがします。

指導課長。

【指導課長】 昨年度と比較しても、ほとんど同じです。どちらも58%、40%、40.5、40.9ということですので、ほぼ同じという状況にあります。

【菅谷委員長】 どうぞ。

【鈴木委員職務代理者】 1つだけ。インターネットをしている時間なんですけれども、特に中学生について、1時間以上している生徒が大体62.3%。もっと長い時間やっている人も多いただろうけれども、ネット依存に、これ、だんだんなりやすいと思うので、その辺を、ネットをやるときの約束事をかなり厳しくやるようにしないと、依存になっちゃう可能性が強いんじゃないかと。中学生。

【菅谷委員長】 センター長。

【教育総合支援センター長】 まず、SNS関係のネット依存につきましては、今、各学校において、学校ルールというものを1つ、それから、家庭ルールというものを、東京都主催で、今、いろいろな活動をしているんですけれども、本区においても、各学校において、必ず家庭で子どもたちと親が約束をしてルールを決めましょうと。

例えばある家庭は、8時以降になったら携帯、スマホはリビングに置くとか、部屋には持って入らないとか、いろいろなルールを決めながら進めてはいるんですけれども、若干、やはり家庭の中でも差が大きく広がっているというのが現状です。なので、今後、まずは本年度も含めて、子どもたちへのネット依存も含め、またいじめもありますので、十分、対応していきたいと考えています。

【菅谷委員長】 よろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

【菅谷委員長】 それでは、平成27年度保護者アンケート、平成27年度児童・生徒アンケートの結果について、よろしいでしょうか。

では、本件は了承いたしました。

次に、日程第2、報告事項6 平成28年度東京都児童・生徒体力調査の結果について説明をお願いいたします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 それでは、私から体力テストの結果についてのご報告をさせていただきます。資料のほう、資料番号7番のA3の横をごらんください。

まず、この資料でございますが、右側に28年度、それから昨年度の記録の比較ができるものと、東京都の結果を載せているものがございます。上のほうを見ていただくと、例えば握力の場合は筋力、また上体起こしは筋力、筋持久力ということで、運動における運動能力の視点も載せさせていただいております。それから、左側に行きまして、枠の上は結果の概要、下のほうについては成果と課題ということで、現時点で考えられる、またこちらで考察しているものを載せております。

簡単ですけども、まず全体としては、結果の概要等を見ていただければと思うんですが、今年度、28年度、昨年度と比較すると、体力合計点は、小学校、前期課程においては約7、中学校においても9ということで、全体的に記録は伸びているという現状でございます。

ただ、右側の資料を見ていただくと、黄色のところ結構あるのは、都全体も平均がグッと上がっているため、品川も伸びているんですけども、都も伸びているため、どうしても平均が下回っているということになります。なので、そういう状況にあるというふうに考えております。

全体、品川区の子どもたちを大きく見たところ、特徴としては、この結果から、すばしっこくて、繰り返し、スピードのある動きはとても得意であるということが言えるのではないかと考えられます。また、小中、義務の前期、後期も含めてなんですが、1年生から9年生まで、男女とも、反復横跳び、また20メートルシャトルランの数値は大変高いということで、敏捷性や全身持久力という筋運動能力にはすぐれているというところが見てとれると思います。

小学校においては、男女とも、繰り返しになりますけれども、反復横跳びの数値が高いということ、また、同じ動きや変化する動きに対する適応力が高いということが言える。一方、立ち幅跳び等の数値が男女とも低いため、瞬発力というところに課題があるというふうに見ております。

また、中学校、また後期課程においては、男女とも、持久走の数値が低いということで、原因といたしましては、中距離を走るような経験や、場所の問題もあると思いますが、そういうものがちょっと不足しているのではないかとということ、また小学校と同様、立ち幅跳びの数値が低いため、瞬発力とともに腕の振りや飛ぶタイミングという2つの動きを一緒にする、そういう動きの課題が見られるというところがございました。

また、今回、体力合計点で、都の平均的なものを見たところ、小学校または義務教育の前期課程においては、21校が都の全体の平均を超え、昨年度よりも2校増えたという現

状です。中学校または後期課程においては9校あって、昨年度よりも2校増えた。全体的に都の平均よりもちょっとずつ品川区の体力は上がっているというふうに見えるかなと思っております。また、反復横跳び、シャトルランについては上回っているということで見られます。

また、前年度の比較においては、長座体前屈、前にグッと膝を伸ばした状態で座って、前にかがみ込む、またそういうところ、中学校においては上体起こし、いわゆる腹筋的なものの低下が顕著に見られ始めているということがございます。

成果と課題というところで見ていると考えておりますが、体力向上としての部分でございます。まず、小学校と前期課程の女子のソフトボール投げなんですけど、前年度は全学年で都の平均を全て下回っておりました。本年度は、小学校を見てもらってもあれなんですけれども、2学年を除き都の平均を上回ることができました。

これは、1つは本区で行っているプロジェクトの中でスポーツトライアルというものをやっております。その中で、シャトル投げというのがあるんです。いわゆるバトミントンの羽を前に投げる。これは軽いものですから、結構腕をしっかり振らないと前に飛ばない。そういうものが、実際、効果的にできているのではないかなというふうに考えているところです。

また、昨年度からスタートしていますスポーツトライアル11種目、休み時間にいろいろなものを取り組もうというものについて、休み時間、子どもたちも運動に取り組む習慣、また日常が結構広がって見えてきたということもあり、今回、全体的な体力向上の一つの要因になったのではないかなというふうに考えているところです。

逆に、見ていただくと、女子の一番左側の握力が低いというところで、重たい荷物を持ったり、買い物とかにあまり行かなくなったのかなというのはあるんですけど、今回、スポーツトライアルの中に新聞丸めという運動を取り入れているんです。新聞を開いた状態の半分の大きさを片手で丸めていくんです。それを片手で2分間で幾つ丸めることができたかという運動も取り入れていたりしますので、そういうのをすごく積極的にやっているところはちょっと効果が見られているというようなところもありますので、今後とも、スポーツトライアルのいろいろな取り組みを進めていこうというところを考えているところです。

2つ目の成果としては、ワンミニッツエクササイズモデル校がありますけれども、そのモデル校は、長座体前屈、いわゆる柔軟性の部分については、都の平均よりも14ポイントも、相当高いところで結果が出ておりました。これは、ストレッチ系をその学校は結構取り入れてもらっています。体育の時間の前、それから家庭に帰ってお母さんと一緒に、お父さんと一緒に風呂上がり、ちょっと運動をすとかというのを取り入れて、モデル校は実施してもらいました。徐々にですけれども、そういう成果も結構出てきているのかなと考えられます。

また、テクニカルアドバイザー、専門の能力を持った方々が学校に入って、体育の授業の補佐をしていただいている授業でございますが、このアドバイザーを配置したモデル校の多くは、この体力合計点が増加をしているというところになります。単純比較ではないんですけど、テクニカルを導入している学校の小学校の平均が81に対して、導入していないところは68ということで、結構顕著にあらわれてきているところもあります。

また、逆に中学校はテクニカルを入れているほうが低くなっているという現象もありますので、この辺はどういうふうに、今後、対応していくかというのが大きな課題になっております。

それ以外に、課題の部分では、やはり小学校では、ここにも書いておりますけれども、結果が一番高い学校と一番低い学校で、小学校では40ポイント、中学校では35ポイントの開きが見られるというところがあります。この辺は、こちらのほうでこ入れをしていかなきゃいけない部分と、より一層、体育の授業だけではなく、日ごろのそういうスポーツトライアル等の協力もお願いしていかなきゃいけないと感じてございます。

また、中学校、義務教育学校の前後期課程の女子の結果については、やはり2年連続で各種目とも体力の合計点が下回っているということは、大分重く受けとめているところです。この辺についても、少しずつ成果があらわれている部分と、また今後、どういう活動をしていかなきゃいけないかということで、本区で行っている体力向上推進委員会のほうにも結果を出ささせていただいて、改めて部分的な取り入れを進めていかなきゃいけないかなというところがあります。

これ以外に、このスポーツテストの中に生活実態の調査もあるんですけども、まだ結果がこちらに出てきていないものですので、その中には、例えば1日の運動量はどれくらいですかとか、例えば地域のスポーツに入っているとか、部活動をどれくらいやっているかというような調査もありますので、その辺の結果も見ながら、今後とも、この体力テストの結果を踏まえて、品川区の子どもたちの体力をどう上げていくかということについては、取り組みを進めていこうというふうに考えているところです。

以上です。

【菅谷委員長】 1点、よろしいですか。さっきの学力のところは、全国との比較があったんですが、これは東京都の比較なんですけど、全国と東京のレベル差、東京は、大体、体力がないと言われておりますけれども、今、東京都と比べて中学課程の女子はほとんど落ちていきますので、そうすると、東京都が全国でどのくらいかというのがちょっと気になるんですけども、もしわかったら教えてください。

センター長。

【教育総合支援センター長】 まだ全国の結果が出ていないものですので、ちょっと比較ができないんですけども、昨年度で言うと、東京都は47都道府県中、やはり下のほうにあって、品川区で言うと、23区26市中、昨年度はその後に結果が出ましたので、大体、真ん中あたりが品川区の順位でございました。またこれについては、結果が出て確認がとれればご報告をさせていただければと思います。

【菅谷委員長】 どうぞ、富尾委員。

【富尾委員】 わかる範囲でいいんですけども、これ、あくまでも平均値になっているかと思うんですけども、ばらつきなどが経年的に少なくなってきたりよとか、そういうような分布の変化などはいかがでしょうか。

【菅谷委員長】 センター長。

【教育総合支援センター長】 昨年度比で言うと、広がりや縮まっているというのが見てとれると思います。小学校はそうですが、中学校は若干広がっているという現状です。

【富尾委員】 今後、いろいろな成果も課題もあると思うんですけども、やる子はや

る、やらない子は全くやらないみたいな差になっていかないように、何かしていったほうがいいのかと思います。

【菅谷委員長】 もう一つ、スポーツのほう、私自身もよくわからないんですけども、いろいろなことを書いて体力のことがわかるような項目に、全部、なっているんですけども、この中で一番技術的なのはボールを投げることじゃないかなという感じがするんですね。あとは、いってみれば何も持たないで、走ればいいという言葉は悪いですけども、そういう形ですね。ボール投げはボールを投げなきゃならないから、いかに筋肉があっても、投げるうまさというんですか、技能というのかな、それが伴わないと、当然、結果は出ないですね。

これを見ていると、中学生、男子、女子含めても非常に弱いんですかね。ちょっとその辺が、特に小学校のときは女子のほうが、男子はいいでしょう。最近、やはりサッカーばかりやっていて、手を使うスポーツをやらないという傾向があるんですかね。そんなことをちょっと感じることは感じるんですけども。子どもなら、投げるとか、駆けるとか、基本的な動作というのは必ずあるんです。その中で、やはり都会性というのかな。子どもの持っている環境というもので、投げる力がすごく、周りを見ていると投げる場所がないとよく言われますけれども、そんなことも少し、過去のデータを見ていらっしゃるセンター長はどういうふうにお考えなのかな。ちょっとお聞かせください。

センター長。

【教育総合支援センター長】 まさにハンドボール投げではございますけれども、実際に、ほんとうに子どもたち、小学校の授業、中学校もそうですけれども、ボール運動はもともとあるんですけども、やはりソフトボールを投げるような動きというのはなかなか、もともと体育の中でやってこなかったというのがあります。また、見ていると、砲丸投げのような投げ方をする子、いわゆる振るというよりも、前に出すという動きをする子、または地べたに思い切りたたきつける、いわゆる離すタイミングがなかなかうまくできなくて、距離が飛べないというようなことがあります。

ある程度、このスポーツテストの平均値が高い学校は、やはりそういうことをきちんと踏まえて、日ごろの体育の授業の中でも、例えば玉入れのふわふわしたものを投げたりするようなものを取り入れているとかということで、ほんとうにちょっとすればすぐにグッと上がるようなものがこのボール投げかなというふうに考えています。

これも今回、やはり中学校もそうですけれども小学校も、なかなかこれもそんなに記録がいいわけではありませんで、そういう動きをつけていくということと、ちょっと難しいのは立ち幅跳びなのかなと。腕を振り上げる瞬間に飛び上がるという、ここがずれると全然距離が出せないということもありますので、この辺のバランス感覚というか、筋肉をどううまく自分の中でコントロールするかということも、今後の大きな課題かなというふうに思っております。

【菅谷委員長】 どうぞ、鈴木委員。

【鈴木委員職務代理者】 先ほどちょっと言った、テクニカルアドバイザーがついて小学校は伸びている、中学校は伸びていないって、原因は何かあるんですか。

【菅谷委員長】 センター長。

【教育総合支援センター長】 小学校は、技能指導の中で師範が結構メインなんですけ

れども、中学校は、ある単元と一緒にやってやるだけなので、そんなにトータル的なものに、多分、効果が見られていないのかなと思うのと、それ以外にも要因があるのかなと思いますけれども、やはり小学校は、一番強いのは、子どもたちがすごく意欲が高まるんです。楽しい、おもしろい、できるようになった、そこが、今回、こういう結果に、運動に親しもうとか、チャレンジしてみようということで、結果がグンと上がっているのかなと。意欲的なものがすごく強かったのかなと思う反面、中学校においては、特にテクニカルによって技能指導は高まっているんだけど、今回、この結果には直接的につながっていないということもあります。

来年度以降、今度、テクニカルアドバイザーは、ダンスということで、今、考えてはいます。女子のほうにももっともっと運動をできるような時間とかものを多くしたいと思っておりまして、今度、そのダンスを取り入れることによって、全身のバランスとか、少し筋力的なアップも図れるのかなと思いますので、それについてはまた継続して調査をしていきたいと思っています。

【鈴木委員職務代理者】 中学生が楽しくやれるような、意欲、やる気になる工夫が難しいんですね。何か目標を定めて。

【教育長】 中学校では、やはり小学校のように、朝、走ったりとか、縄跳びを全員でやったりとかということあまりやらないので、どうしても運動系の部活をやっている子どもたちの体力が高まり、入っていない子どもたちは全然運動しないというような二極化が出てきているんです。

モチベーションというのは、小学校段階から高めていかなければだめな要素なんでしょう。実際、中学校のほうでも、例えば、全部、大会に向けての練習のための部活じゃなくて、体を動かすことを楽しめるような、誰でも部活みたいなものがないかなということで、委員会にかかわっている校長のいる学校でトライアルしてもらおうというような企画を、今、つくってはいるんですけども、学校だけで解決できる話ではないですね。これ、品川だけじゃなくて都市部全体の課題でもあるんですが、オリンピック・パラリンピックが4年後にやってくるということを踏まえて、何かそれをきっかけにできないかなという思いはあります。

【菅谷委員長】 私も、今日は学力と体力、両方出てきたのでどうしても比較しちゃうと、やはりこれから先、体力がベースだと思うんですね。学校の勉強の結果だけじゃなくて、体力はこれからの社会を生きていくためのほんとうに土台だと思うんです。やはり小学校、中学生は学校にいる時間は長いんです。そういう学習時間にやはり何とかしてあげたいと思うので。

いろいろなことがあるかもしれないけれども、総合的な成果がこういうふうに出ますので、これ、1年、2年で何をやったらよくなるとか、そういう簡単なものじゃないと思うんです。地道にやっていくしかないけれども、オリンピックが来るまでには何とか、そういうことが平均を上回る。上回るということは真ん中以上ということだから、どこを基点にするかが問題なんだけれども、そういう一つの、ここまでいけばいいかなという感じがするんですけども、皆さんの地道な努力しか、校長先生みずから一緒に走ってよと言いたくなるんだけど、みんな、誰にとってもやはり体力というのは大事だなという感じがします。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

よろしいですか。

【富尾委員】 一言だけ。メンタル的に気持ちが落ち込んでいるときに、体を、大きな筋肉を動かすと気持ちが少しよくなるということもあるので、全体的に運動が盛んになると、精神面の健康も得られるんじゃないかなと思ひます。

【菅谷委員長】 よろしゅうございますか。

それでは、平成28年度東京都児童・生徒体力調査の結果について、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【菅谷委員長】 では、本件は了承いたしました。

次に、日程第3、その他平成28年11月の行事予定について説明をお願いいたします。

庶務課長。

【庶務課長】 それでは、11月の行事予定についてご報告をいたします。

資料9でございますが、まず11月5日の土曜日は宮前小学校の90周年ということで、菅谷委員長、海沼委員、教育長のご出席の予定でございます。

11月8日は定例会ということで、11月12日の土曜日は山中小学校の100周年ということで、こちらのご出席は鈴木委員、富尾委員、そして教育長と予定しているところでございます。

11月22日は教育委員会の定例会ということで、それに続いて24日、25日の木金ですが、こちら、区議会のほうの本会議定例会となっております。こちら、菅谷委員長、教育長のご出席の予定でございます。26日土曜日については鮫浜小学校の140周年ということで、こちら、鈴木委員、海沼委員、教育長のご出席の予定となっております。

よろしいでしょうか。以上となります。

【菅谷委員長】 11月の予定、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、平成28年11月の行事予定について、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【菅谷委員長】 では、本件は了承いたしました。

その他ですが、何かございますでしょうか。

指導課長。

【指導課長】 済みません、先ほどの回答なんですけれども、大変遅くなりました。

まず、全国学力・学習状況調査のそれぞれの問題数についてですが、小学校の国語のA問題が15問、同じく国語のB問題が10問、算数のA問題が16問、算数のB問題が13問でございます。中学校につきましては、国語のA問題が33問、国語のB問題が9問、数学のA問題が36問、数学のB問題が15問となっております。

A問題、国語につきましては、漢字ですとか語彙の問題が多いので問題数が多くなっています。同じく算数、数学は、計算問題がA問題には多いので、問題数が多くなっているという状況でございます。

もう1点、ご質問がございました児童・生徒アンケートの中の、自分には良いところがあると思っている子どもなんですけど、区の調査では、小学校、児童は76.6%、生徒は6

6.6%というところなんです、これは3年生以上の子どもたちを対象としておりますけれども、国の調査ですが、6年生、9年生、自分には良いところがあると思っている、本区の児童は76.7%、ですので同じです。都は76.0%、国は76.3%なので、児童に関してはほぼ同じなんです、若干、本区の子どもたちのほうが高め。

一方、生徒なんですけれども、66.6%は先ほどのアンケートです。この全国学力・学習状況調査では68.3%となっています。それから、都では69.2%、国では69.3%ということで、若干下がっていますけれども、ほぼ国と都と一緒に捉えていますので、どちらにしても、やはり年齢が上がるにつれて、自分にはいいところがあると考えている子ども、自己肯定感が高い子どもが若干減ってくる傾向が、発達段階によると思いますが、あるんだなということがわかると思います。

以上でございます。遅くなって申しわけありませんでした。

【菅谷委員長】 よろしいですか。ほかにありませんか。

それでは、先ほど決定いたしましたとおり、非公開の会議をこれから開きますので、傍聴の方はご退席をお願いいたします。

(傍聴者退室)